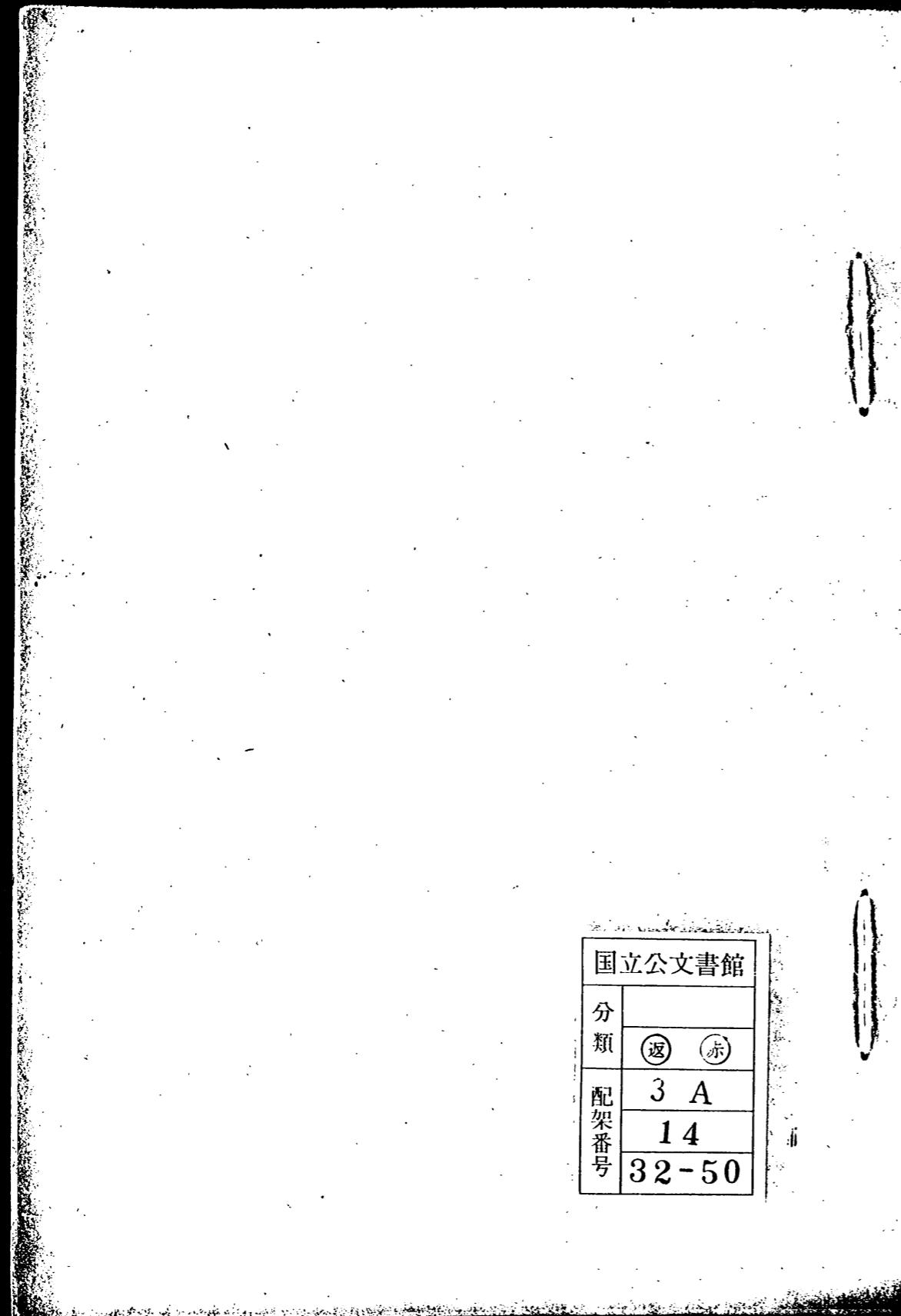


■ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ■



## 規則第七十一條適用

昭和二十年四月三十日  
第一陸軍技術研究所

### 五式十五粍高射砲取扱上ノ注意事項

總 説

SHIPPING ADVICE# 1012  
SACK # 1143  
ITEM # 5099  
第一 本火砲ハ高高度目標ニ對スル制空ヲ目途トシテ設計製作セラレタルモノニシテ特ニ第一號及第五號砲ハ早急ニ上記目標ノミタ眼目トシテ完成セルモノナルヲ以テ今後兩火砲ノ成績ニ鑑ミ所要ノ修正ヲ行フト共ニ照準機其他部品中既製ノ部品ヲ使用シ能力不充分ナリシ點モ逐次相當部品ノ完成ニ伴ヒ之ニ置換へ能力ヲ増大スルコトトス從テ最初ノ二門ニハ使用上ノ制限能力不充分ナル點有ル可キモ兩火砲ノ取扱ノ經驗ニ鑑ミ次期完成品ノ向上ヲ豫期シ取扱上注意シ十分現有能力ヲ發揮スル如ク心掛ルコト  
第二 最初ノ二門ニ於テ特ニ能力上不充分ナル點ハ次ノ二點ニツキ豫メ特性ヲ承知シ取扱フヲ要ス  
1. 照準機ハ電力裝置及整動機ノ設計製作期日間ニ合ヘザリシタメ既製ノ十二高用ノモノヲ利用セリ。之ガタメ各部ノ重量十二高ニ比

めくれず

シ二倍ノ本砲ニ對シテハ能力不充分ニシテ無理ナル用法ヲ行フト  
キハ耐久力不足スルヲ以テ取扱上此ノ點ニ注意ヲ要ス  
2. 高高度ヲ目途トシ最初ハ五〇〇〇米以下ノ高度ノモノハ他ニ譲リ  
之ヲ考ヘル必要無シトノ條件ニテ設計ヲ進メタルモノニツキ低空  
高速度目標ニ對シテハ鉛重ニシテ追隨シ得ザル點アリ且又射角モ  
低射角ハ機能上制限セザルベカラザル點アリ此ノ點實用ノ結果要  
スレバ或程度迄可能シ如ク將來製造スルモノヨリ考慮スル事トス

#### 細部取扱事項

##### 第三 高低照準機

高低照準機ハ搖架以上ノ俯仰体ヲ砲耳ニ對シ俯仰セシムルモノニシ  
テ之ヲ上下共同一力量ニテ輕易ニ照準シ得ル様砲耳ヨリ前方ニ突出  
セル長大ナル砲身ト鈎合フ如ク搖架体後方ニ大形ノ重錘ヲ取付ケア  
リ之ニ依ツテ上下共同手力ニ依ツテモ照準シ得ル如クセラレアリ然シ  
之ノ重錘ノ爲俯仰体ノ重量ハ増大シ急速ニ移動停止スルトキハ慣性ニ

ニ依ツテ大ナル抗力加フル事ニ注意シ運動停止ハ緩徐ニ行ヒ又移動  
間ハ圓滑ニ操作シ移動停止ヲ繰返サザル如ク照準ヲ行フヲ要ス  
特ニ第1號砲及第五號砲ハ前述ノ如ク照準機駆動機ノ能力不充分ナ  
ルモイテツキ操作ヲ緩徐ニ且圓滑ニ行フヲ要ス

尚射角十五度以下ニテハ彈藥裝填連續操作機能並ニ閉鎖機開閉抽筒  
機能不充分ナルヲ以テ照準セザル様注意ヲ要ス

##### 第四 方向照準機

方向照準機モ亦高低ト同様旋回体ノ重量大ニシテ臂力操作ニ對シテ  
ハ慣性过大ナルタメ始動稍困難ナルモノアリ一度始動シ連續同一方  
向ニ移動スルハ比較的容易ナルヲ以テ照準モ此ノ慣力ヲ利用スル如  
ク考慮スルコト

又電氣照準機整動機ハ第一號砲及第五號砲ハ能力不充分ニツキ取扱  
上急停止急加速セザル如ク注意ヲ要ス

##### 第五 照準器具

方向照準具及高低照準具共第一號砲及第五號砲ハ雷氣照準具トノ組合セ規正實施シ得ザリシタメ稍遊隙過大ナル點アルヲ以テ照準ハ「上止メ」「下止メ」等一定シ遊隙ヲ減少セシムル如ク操作スルコト

第六關鎖機、裝填機及自動起動機等急速作動ヲナス部分ノ潤滑油ヘ特ニ注意シ油切レセザル如クスルト共ニ「グリース」及「モビル」油等ヲ使用シ塗油給油ヲ完全ナラシムルヲ要ス。

第七本火砲ハ彈丸重量大ナル爲臂力裝填不可能カルヲ以テ裝填機ノ機能不完全ナレバ射擊全ク不能トナルモノニツキ裝填機構ハ常に完備シ調整ヲ完全ナラシムルヲ要ス。

裝填機構ハ裝填臺、揚彈機、裝填板、同自動起動裝置、裝填機及閉鎖機開閉機構ノ一連ノ作動ニツキ此ノ各個ノ作動完全ナラシムルト。

共ニ特ニ連繫作動裝置ノ調整ニ注意ヲ要ス。

ノ装填臺ヨリ揚彈機ニ彈藥筒ヲ移載スル際ハ彈藥筒ガ轉動シ揚彈機

所定ノ位置ニ完全ニ定位スル如ク規正スルヲ要ス。特ニ彈藥筒從

端ハ揚彈機規正板面ニ接着シ置クヲ要ス。

揚彈機ニ彈藥筒完全ニ架載セラルレバ裝填臺ト本嵌合ヲ解クト同

時ニ揚彈機ハ裝填板位置迄降下シ次ノ作動ニ移ル。然シ揚彈機ノ

降下終速度八十五度附近ノ低射角及六十度以上ノ大射角ニナルト。減少シ次ノ作動ニ作用スル力不足スルコトアルヲ以テ揚彈機ハ常

ニ昇降用ハンドルニ依ツチ昇降ヲ援ヒ加速スルヲ要ス。

3. 揚彈機ノ速度不充分ニテ自動起動機ノ止金外レズ或ハ調整不充分

操作上ノ對策ナシ規正調整ニ就テハ別ニ示ス。

4. 自動機動機ノ作動、裝填機ノ翻轉復歸、信管觸合及裝填並ニ自動開鎖ハ凡テ機力ニ依ルモノニツキ豫メ規正調整シ直クヨリ外特別

撞入不能半時以俟ヲ起スコトアリ特ニ注意ヲ要ス。

第八 信管測合ハ射角ノ如何ニ力ハラズ又發射ノ間ニ於テモ實施シ得ルモノニツキ常ニ連鎖密施スルヲ要ス

信管測合ヲ強丸ガ信管測合板ノ中ニアルトキ大移動スルト誤差ヲ伴フモノニツキ成ル可ク一時ニ大修正ヲ行ハズ信管分量ノ性質上逐次

変化スルモノニツキ逐次追隨照準シ居ルヲ要ス第九發火ハ拉縄被火トシ各砲手ノ操作完了シ装填終リ閉鎖板完全閉鎖ヲ確メタル上牽引發火スルモノトス

第十發火后ノ次發装填ハ閉鎖板完全開放シ空薬莢ノ轉落ヲ確メタル

上揚彈板駕松ヲ解キ揚彈機ヲ降下自動装填ニ移ルモノトス

藥莢ヲ轉落セザル中、次發ノ装填ヲ實施シ得ザル如キ安全装置ハ施シアラザルヲ以テ之ノ點装填手ノ操作ニ俟チアルモノニツキ藥莢轉落セザル前ニ次發ヲ装填シ突込ラ生セシメザル如ク特ニ注意ヲ要ス

第十一 大射角ニテ轉落シタル藥莢ハ回轉盤上ニ停リ高低照準並ニ次發ノ装填ノ防害ヲスルコトアルヲ以テ藥莢撞出器ヲ持ツ砲手一名ヲ

### 砲尾砲床上ニ置キ空薬莢ハ適時擇出シ整理セシムルヲ要ス

#### 細部調理事項

第十二 本火砲ハ照準ハ電力ヲ主トシ手力ハ補助的ノモノデアリ装填装置ハ全クノ機械的ノモノニテ取扱上操砲ノ不良ニ依リ生起スル故

障碍ヨリモ機能調整、整備ニ起因スルモノ大部 分ナルヲ以テ豫メ之ノ點特ニ整備調整ニ重點ヲ置クヲ要ス

第十三 照準機ハ前述ノ如ク一部能力不充分ノ點アルヲ以テ照準板各滑動部ノ注油塗油ヲ完全ニシ反起焼付等起ラザル如ク注意シ圓滑ニ活動シ得ル如ク準備スルヲ要ス

尚整動機ノ排氣及油ノ補充ヲ完全ニシ置クヲ要ス第十四 閉鎖機開閉軸臂ト開臂トノ摩擦及打撃桿ト起動金ト摩擦ハ藥莢抽出難ノトキハ特ニ萬タシク時トシテ焼付ヲ生ズル處アルヲ以テ摩擦部ハ「グリース」ヲ塗布シ防擦ニ注意スルヲ要ス

摩臂及開閉軸臂並起動金等ハ磨耗セバ塗抹品ト交換シ跡係寸法ヲ調

查シ量グラ要ス

關係寸法ハ砲身ヲ水平ト復坐標トノ連結ヲ解キ閉鎖機ヲ自動開閉  
トシ拉起器ニ依リ砲身ウ約四四〇耗後退セシメ而ル後再ビ砲身ヲ前

進セシメント開鎖機ヲ開放セシム  
閉鎖機鎖栓全開前一六耗ニテ抽筒子ヲ脱リ始メ之ノ駆リ始メノ時期

ヨリ約四耗砲身前進シテ打撃桿ニ起動金當ル如ク規正スルモノトス  
第十五照準具及信管測合機ノ目盛ト合致スル如ク規正ヲ要ス

第十六装填装置ハ揚弾機、装填板自動起動機、装填機閉鎖機自動開  
閉自身ノ機能並玉關係運動機構ヲ調整スルヲ要ス

1. 揚弾機ハ弾薬筒抑装置方装填板ニ作用シタル際完全ニ翻轉シ得ル  
2. 姿勢トナリ装填板面ニ一致シテヨリ一〇耗下降スル間ニ自動起動

3. 桿三鉤スル如ク調整スル事無  
4. 装填板ト信管測合機トノ關係寸法ヲ模範弾丸ニテ検査シ要ス

2. 装填板ハ揚弾機ヨリ弾薬筒ヲ受ケ前後ノ弾薬筒抑金ガ作用シ弾丸

3. 抽出揚弾機ト鉤合ス外鉤合装填板ガ翻轉シ始メ揚弾機トノ噛合  
ヲ解ク迄鉤合居ハ運レ装填板ガ完全ニ動ク如ク規正ス

4. 時装填板ト信管測合機トノ關係寸法ヲ模範弾丸ニテ検査シ要ス

5. 装填板後端ノ當板チ依リ規定ス

6. 自動起動機ハ揚弾機ガ降下シ弾丸受動ノ上面ガ装填板同部上面ト

7. 政シヨリ約一〇耗下降スル間ニ止金ガ外レテ自動翻轉装置方  
動並始メ装填板ガ砲身軸ト一致シテヨリ約五耗行過ギル間ニ於テ

8. 衝板ト起動臂トノ接觸外ル如ク規正ス装填板ヲ砲尾ニ止メル止  
9. 犀ノ装填板ガ砲身軸ニ一致スル位置ニ至レバ完全ニ止メ作用ヲナ

10. 装填板ハ長大ナモ齒桿ガ復坐速度約三。八倍ノ速度ニテ後退シ各  
部滑動部多キヲ以テ塗油注油ヲ完全ニシ輕易ニ滑動シ得ル如ク規  
正ス

11. 装填板ニ依リ之方標識終期三外スモノニシキ装填板ガ砲尾

止桿ニ依リ抽止ヤラレテヨリ約五秒行過キル間上於作用シ外  
レル如ク規正スルヲ要ス

又止金ガ外レルサ前装填腕ノ砲身軸線上ニ突出スル作動ヲ完全ニ  
實施シ得ル如クスルヲ要ス

装填板ヲ翻轉シタル際先ツ腕ヲ外方ニ押出シ而ル後止金ノ外レル  
事ヲ確メ要スレバ轉動桿ヲ調整スベシ

全装填腕ガ装填板内ヲ前進シ腕部方装填板内ヲ通過シ終ル際解脫臂  
ニ依ツテ装填板止桿ノ大レバ一ヲ打チ止桿ヲ壓入シ装填板ハ復歸  
ばねニ依ツテ復歸スル如ク調整ス

装填腕ニ依リ彈薬筒ヲ完全ニ砲尾面迄壓入シ藥莢起縁部ニ依リ抽  
筒子ヲ前進セシメ鎖栓ト抽筒子トノ鈎合ヲ解キ鎖栓ガ完全ニ自動  
閉鎖シ得ル如ク規正ス

装填腕ハ齒車室鉤部ノ調整並依リ前進或ノ後退不足トナルコトアリ  
リ竣工時粗立ニ當リ充分餘裕アル如ク結合調整シ置クヲ要スハ  
ば

損等ニ依リ腕ノ前進後退不足多起スコト多シ

退機之土部ノ遊液室ニ僅カニ空氣ヲ含ム程度ニ補液シ置ク  
モノトス

第十八 復坐機空氣壓ハ六五乃至七〇氣壓ニテ火砲ニ依リ竣工試験ノ  
際調整シ履歴ニ記載シアリ

累塞具ハ「グリース」加壓式カルヲ以テ「グリース」不足セバ壓力  
補充スルヲ要ス

復坐空氣壓不足セバ大射角ニテ後坐長過長トナリ壓過大ナレバ低  
角ニテ後坐長不足トナリ閉鎖機自動開閉作用セザルニ至ル

取扱上故障ノ應急對策

第十九 藥莢抽出不能及抽出難

薬莢燒付半基タシク固キトキハ薬莢全ク抽出シ得ズ鎖栓ヘ一應開  
クモ抽筒子ニ鉤シ得ズ再び閉鎖スルニ至ル此ノ際ハ閉鎖轉把ヲ引  
上ゲ手動ニ依リ開放シ數回強力ニ開放スルモ尙薬莢抽出シ得ザル

トキハ砲腔ヨリ撞桿ヲ挿入シ勢良ク射角ヲ昇上シ撞桿ヲ砲口ノ  
滑降ヤシメ空薬莢ヲ槌打抽出セシムベシ  
撞桿ニヘ中徑一〇〇堯長サ一米半程度ノ堅木トシ後方一端ニヘ加  
重ノ爲金屬環ヲ附加シタルモノヲ用意スルヲ可トス、止ムヲ得ザ  
レバ十糰約ノ弾丸ヲ利用スルモ可ナルベシ

2 薬莢底膨脹シ鎖栓ノ開放困難トナルコトアリ之ノ際ハ手動ニテ開放  
ノ方向ニ強引シツツ鎖栓右側ニ當桿ヲ當テ大槌ニテ槌打スルヲ  
可トス

3 薬莢僅ニ抽出セラレ鎖栓開放スルモ空薬莢滑脱セザルコトアリ之  
ノ際ハ速ニ把手ハ援助シ後方ニ抽出スペキモノトス

第二十 焚火不能

ノ本閉鎖機ハ鎖栓完全ニ閉鎖シ終ラザレハ發火シ得ザル如クセラレ  
全閉鎖ニ依リ不發トナルコトアリ之ノ際ノ發射態勢ニテ  
タ引上げ發火軸ヲ引揚ゲタル上鎖栓ヲ左方ヨリ槌打シ完

